



若葉小だより

HP <http://www.chofu-schools.jp/wakaba-sho/> E-Mail wakaba-sho@chofu-schools.jp

特別号
令和 7 年 2 月 3 日
調布市立若葉小学校
校長 内藤 みゆき



「令和 6 年度 若葉小学校学校評価アンケート」について（集計結果等）

表題の件についてご報告させていただきます。保護者、地域の皆様にはご多用の中、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。本校では、学校・家庭・地域の連携を大切にしながら教育活動を推進していきたいと考えており、学校生活の主役である子どもたちの参画意識や主体性を育てていきたいとの観点から、児童（2～6年生）・保護者及び地域・教職員の三者で同じ内容のアンケートを実施しております。（回答者に合わせて、主語など多少文章を変えています。）

以下、アンケートへの回答に対する結果と考察をまとめましたので、ご覧ください。これを踏まえ、次年度の教育活動をさらに充実させるべく教育計画を立案してまいります。

引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。

集計結果 児童（2～6年生）からの回答 【回答率 91％】

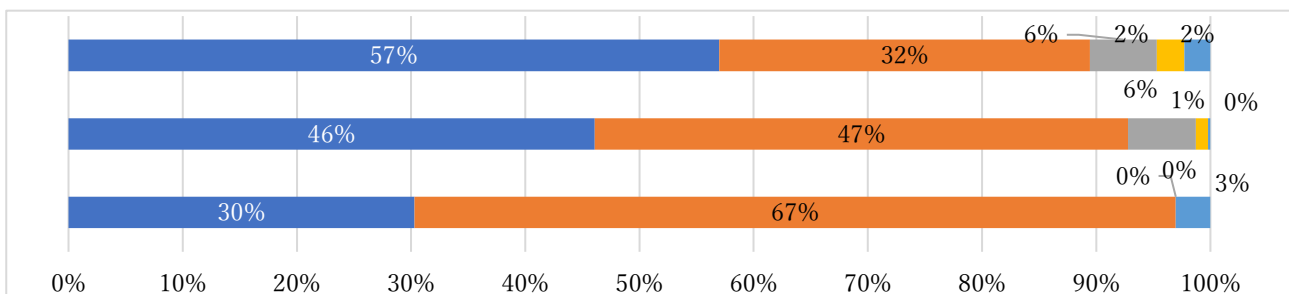
保護者・地域からの回答 【回答率 64％】

教職員からの回答 【回答率 100％】

● とても思う ● 思う ● あまり思わない ● 思わない ● わからない

◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（2～6年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

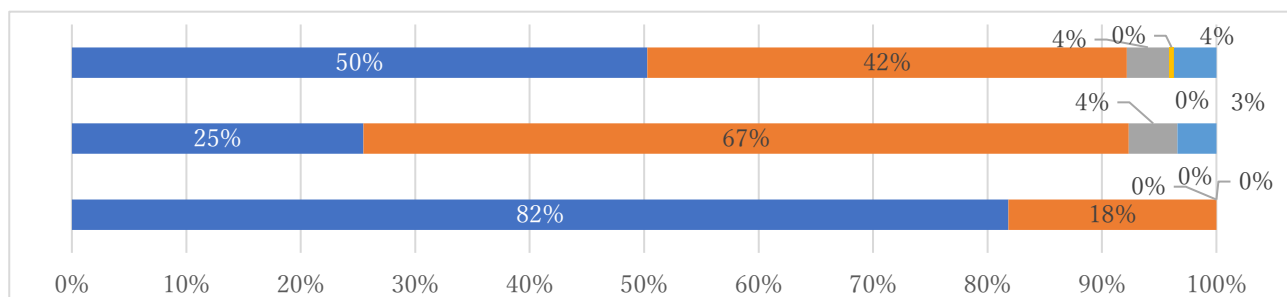
①【学校は楽しい】学校の友達に会ったり、日常生活を送ったりすることを楽しみにしながら学校に行っている。



3者ともに90％近い肯定的評価です。多くの保護者の方から、児童に対する教員や地域、シルバー人材による見守り等があるおかげで、安心して学校生活を送ることができているというお声をいただきました。引き続き学校生活が児童にとって楽しいものであるよう目指していくとともに、「あまり思わない」、「思わない」を選択している児童がいることを真摯に受け止め、各学年・学級できめ細やかな見守りや支援、相談体制の充実に努めていきます。

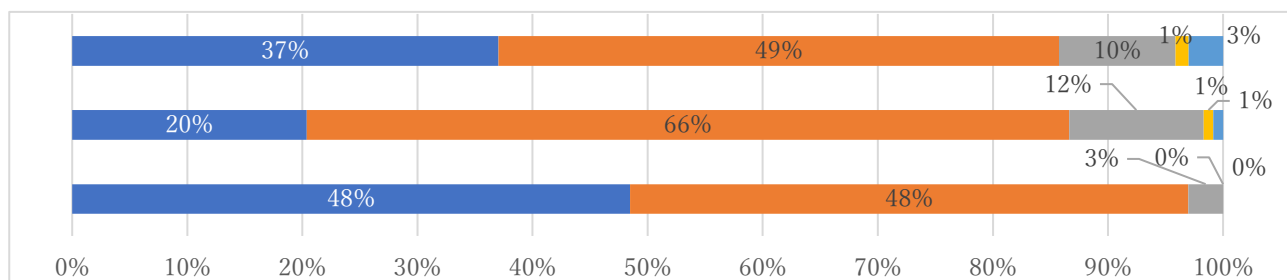
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

②【自他の尊重】自分と他者とは違いがあることを理解し、多様性を尊重しながら互いを大切にしようとしている。



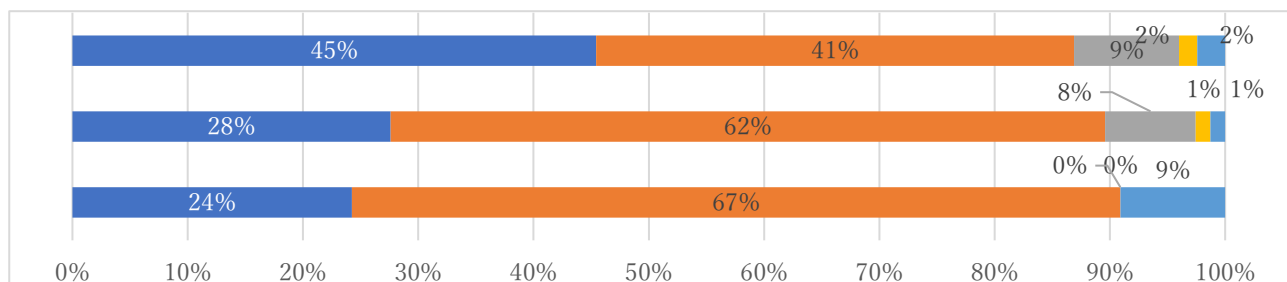
年３回の「ふれあい月間」、１２月の「いのちと心の教育月間」、道徳の授業をはじめ、日頃より人権に関わる教育や学校教育目標の一つである「思いやりのある子」の育成に力を注いでいます。今後も、自分とともに友達や周りの人を大切にする心を育てていきます。

③【基本的な生活習慣】決まりや約束を守る意識をもっており、挨拶をしたり時間を守ったりするなどの基本的な生活習慣が身に付いている。



３者とも８５％を上回る肯定的評価ですが、より一層の基本的な生活習慣の定着を図りたいと考えます。全校朝会での挨拶、靴箱の整頓など高学年が手本となる姿勢を示しているため、その姿が全校に向けてよい影響が広がるよう声を掛けていきたいと思ひます。全校朝会で紹介する週ごとの生活目標に対し、各学級で学年の発達段階に応じた取組を行い、週の最終日に振り返りをするなど、創意工夫していきます。また、保護者の方からは、学校公開等における自転車来校について「控える旨連絡がありますが、守られていないように感じます。子供にルールやマナーを教え、見本になるはずの親や大人が守れていません。」とのご意見をいただきました。お便りや「すぐー」等で注意喚起を促しているところですが、保護者、地域の皆様の姿も子どもたちにとっての範となります。我々教職員も含め、子どもたちに恥ずかしくないマナー、行動を心がけてまいりましょう。ご協力をお願いします。

④【基礎的な学力】基礎的な学力を身に付け、「わかった」「できた」といった達成感を味わっている。

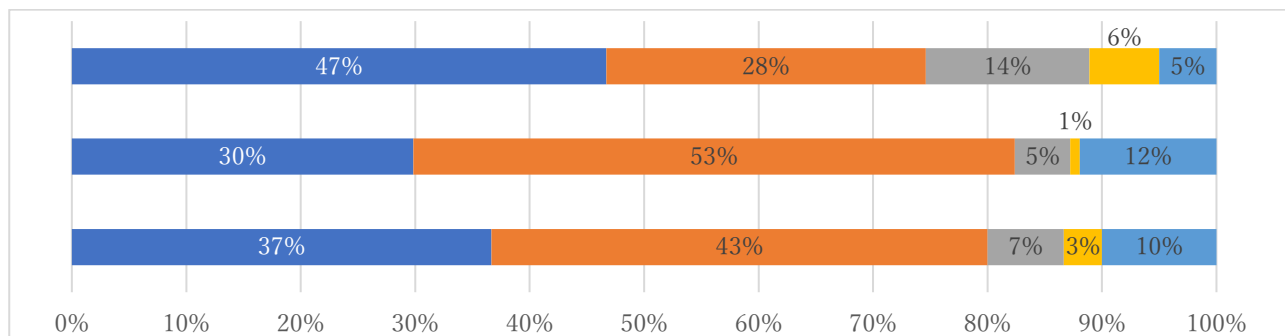


保護者・地域と児童の肯定的評価が８５％を上回る評価を得ましたが、すべての児童が「わかった」「できた」という達成感を味わえるよう、個別最適な学びと協働的な学びにおける授業改善やICT機器の活用など、教員個々の授業力の向上を目指した研究・研鑽に努めていきます。

◎以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

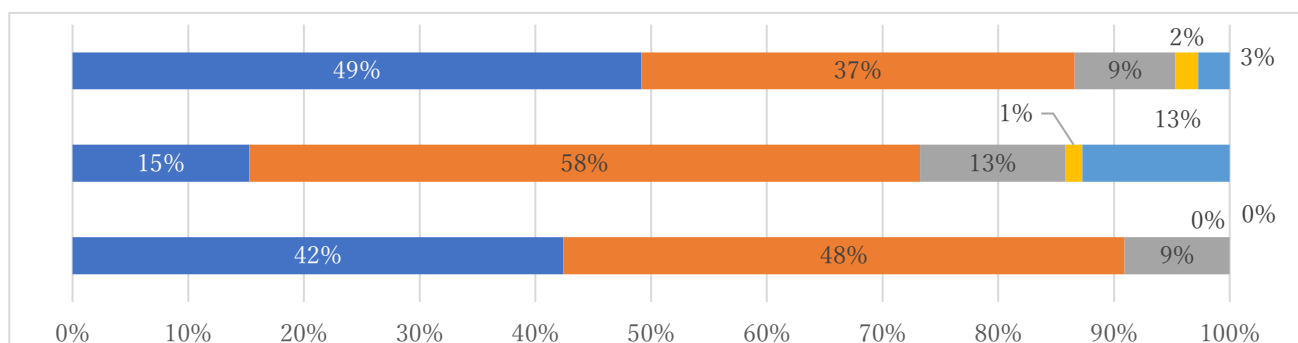
⑤【算数科習熟度別の指導】算数科での習熟度別による指導は学習効果があると思う。

（３～６年生回答）



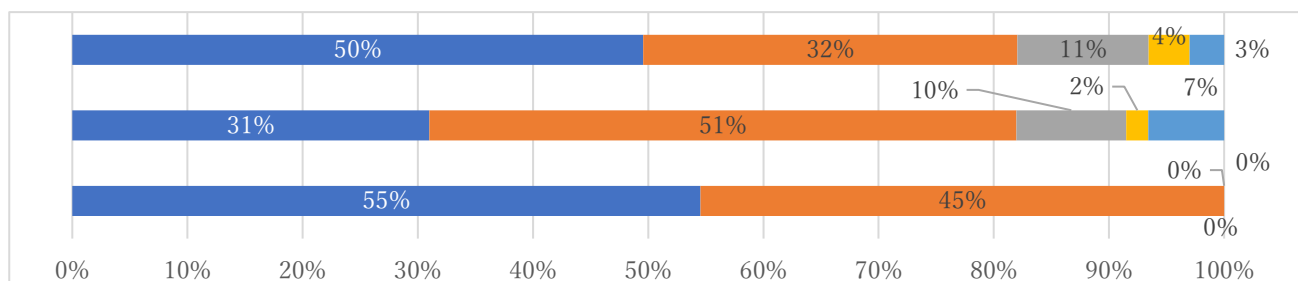
５・６年生においては教職員の病気休職に伴い、２学期は習熟度別学習が予定通り行えず、ご迷惑をおかけしました。大変申し訳ありません。算数は、系統性が強く、学力的な差が出やすい教科ですので、一人ひとりの児童の実態に応じた丁寧な指導をしていきたいと思ひます。

⑥【体験的な学習活動】地域の特色を生かした教材やゲストティーチャーによる出前授業等、体験的な学習活動を充実させている。



教職員、児童と比較し、保護者・地域の肯定率が低い傾向にあります。学校での取組を積極的に発信するとともに、地域の教育資源を生かした教育活動のさらなる充実を図っていきます。また、来年度のコミュニティスクール移行に伴い、地域コーディネーターとの連携を一層密にし、地域と学校の協働活動を推進していきます。

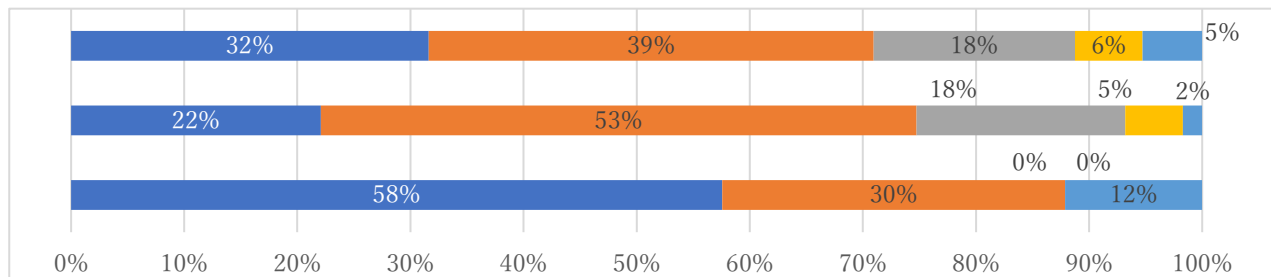
⑦【褒められている】周囲から認められたり褒められたりする経験をしており、主体的な活動への動機付けになっている。



児童及び保護者・地域の肯定率はともに８２％でした。複数の保護者の方から、「先生が本人の長所に目を向け、頑張った事やできた事をきちんとほめてくれるので、自信につながっている」等の言葉をいただきました。児童の自己肯定感を高め、学校が児童にとって安心できる居場所であるよう、日々の授業や学校生活の中で教師が褒めたり児童同士で認め合ったりする場面を意図的に設定し、大切にしていきます。引き続き、一人一人の児童理解に努めるとともに、児童が活躍できる場づくりを工夫し、教員による的確な支援や声掛けを通して自己肯定感や自己有用感を育成していきます。

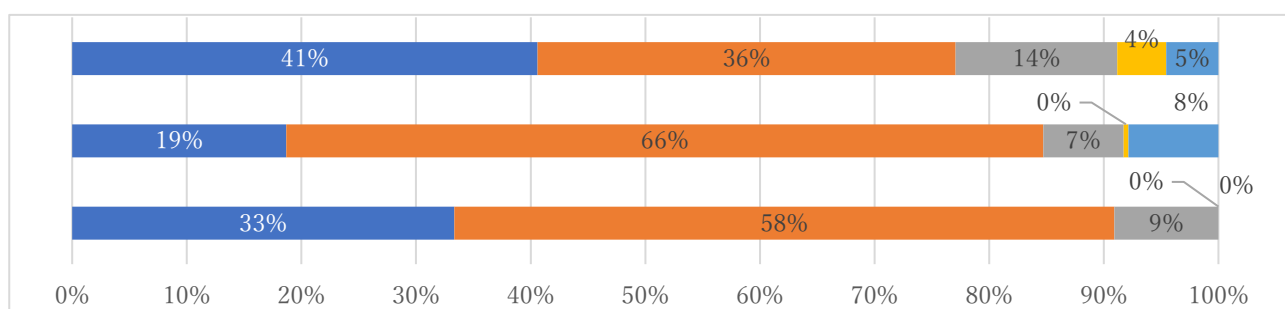
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

⑧【家庭学習】宿題等の家庭学習にしっかりと取り組み、学習習慣を確立させている。



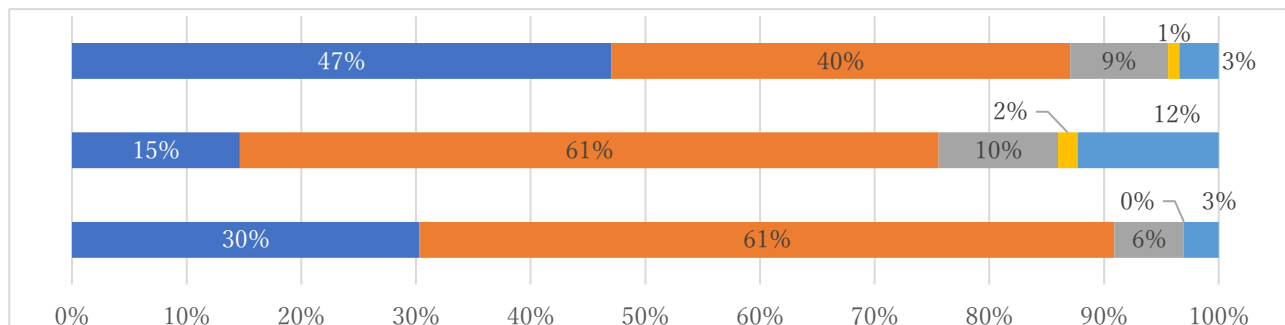
保護者・地域、児童ともに７０％台となっています。上学年に掛けて学習習慣の確立を図るため、下学年でもその素地となる家庭での学習を大切にしたいと考えます。宿題や自主学習などにしっかり取り組めるよう声を掛けていきます。家庭においても、落ち着いて取り組める環境作りや意欲の喚起などをお願いいたします。

⑨【健やかな体作り】校内研究を軸とした体育科授業の充実や縄跳び月間、保健指導の実施、食育の推進などを通して、健やかな体を作る取り組みや指導を行っている。



児童の肯定率が一番低い結果となりました。児童数に対して校庭が狭小である点など、課題もありますが、児童自身が自ら健やかな体づくりを意識できるよう、体力テストの結果分析、「わかば元気アップカード」の活用などを行っています。また、縄跳び月間の充実など、運動機会を創出し、質を高める工夫をしています。

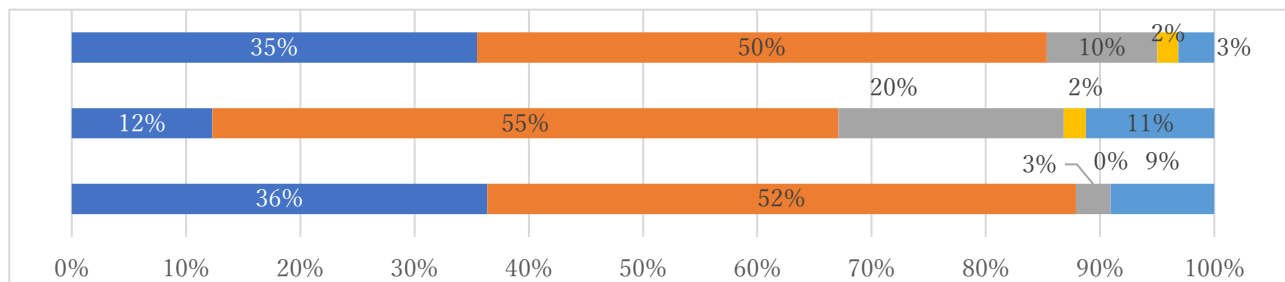
⑩【安全・安心な環境】安心・安全な環境を整えるために校内施設や設備等の整備や保守に努め、安全に関する知識や実践力を身に付けさせる指導を行っている。



日常的な点検及び即時対応とともに、月に一度、全教職員の分担による複数名での安全点検を行っています。火災や地震、水害、不審者対応などを想定した避難訓練を月に一度実施し、訓練前の事前指導と訓練後の事後指導を学年の発達段階に応じて行っています。今後も、万が一の災害や事故への備えを確実に進めていきます。施設の衛生面を心配するお声もいただいておりますので、児童には清掃活動だけでなく、日常的な整理・整頓を心がけるよう指導していきます。

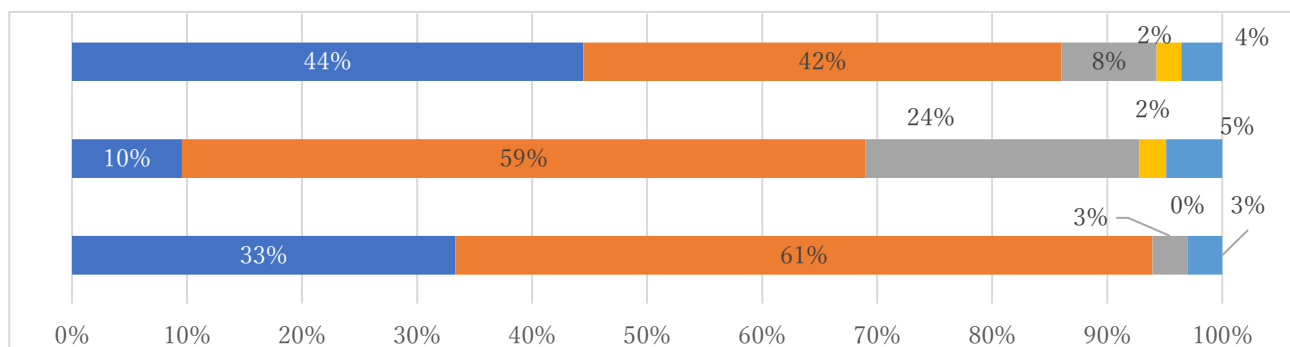
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

⑪【言語活動】 授業中の意見交流など、言葉による表現活動への意欲や技能が向上している。



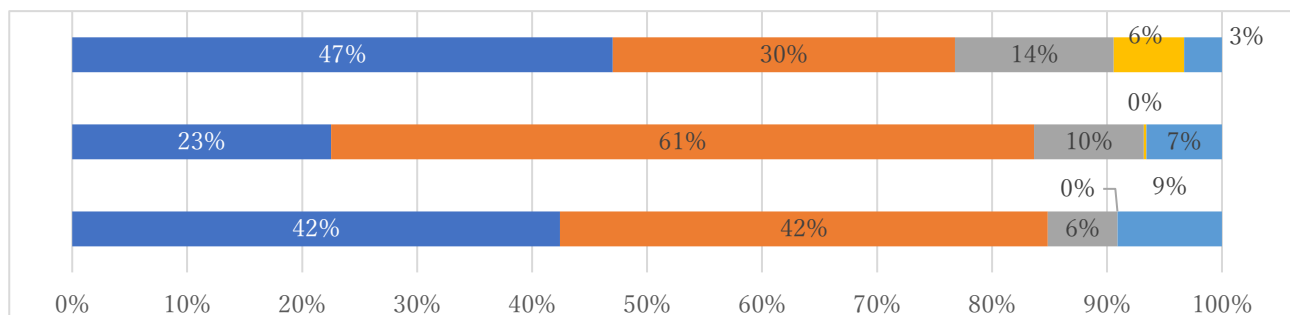
保護者・地域の肯定率は６７％と低くなっています。どの教科の授業においても、隣児童やグループでの話し合い活動及び意見交流の時間を確保していますが、言葉の学習や言葉を用いてのコミュニケーションの場の充実を、国語科をはじめ各教科の授業の中で工夫していきます。

⑫【言語活動】 時と場に応じた適切な言葉遣いが身に付いている。



学校では、コミュニケーションの場面や自分の考えを発表する際に、その場に応じた言葉遣いができるよう指導していますが、保護者・地域の肯定率は７０％を下回る結果となりました。授業等の場面だけでなく、日常的に適切な言葉遣いができるようにするためには、ご家庭との連携が不可欠です。今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

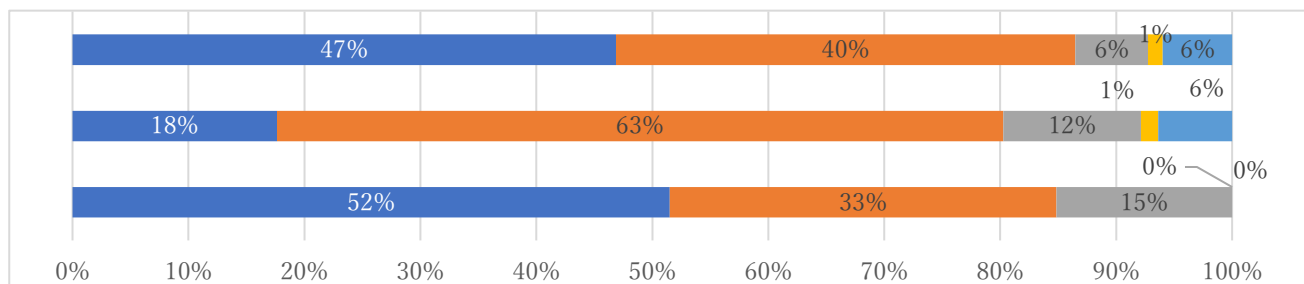
⑬【読書活動】 読書旬間や読書月間、図書委員会による集会や読み聞かせ、毎週の「おはよう読書」等を実施し、読書活動を充実させている。



児童の肯定率が７７％と一番低くなりました。保護者の皆様による読み聞かせ、年間２回の読書月間、図書委員による集会など、児童が本に興味をもったり読書の楽しさを味わったりする取組の充実を図っておりますが、本を読む児童、読まない児童の二極化傾向があります。「おはよう読書」の時間を有効に活用したり、読書の楽しさ・大切さを気付かせたり、本に親しむ児童の姿を目指し創意工夫ある活動を模索していきます。

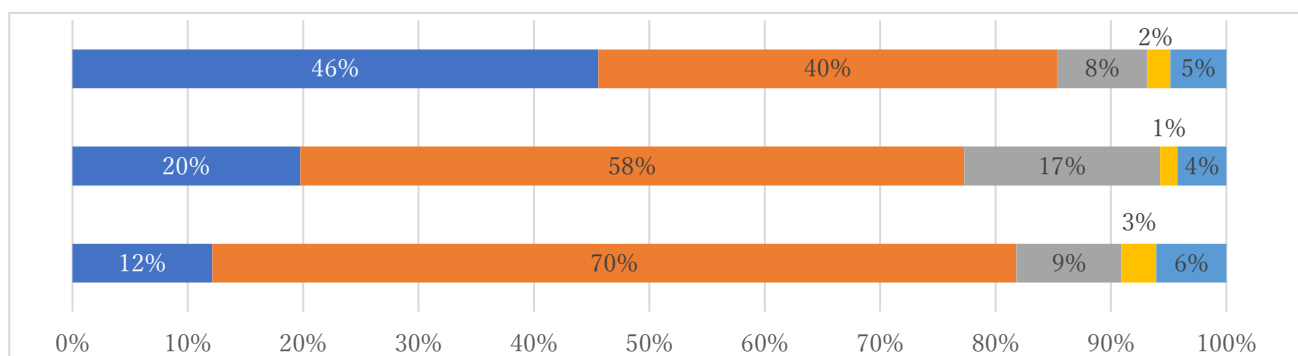
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

⑭【ICT 機器の活用】 iPad 等の ICT 機器を積極的に活用しながら教育活動を行っている。



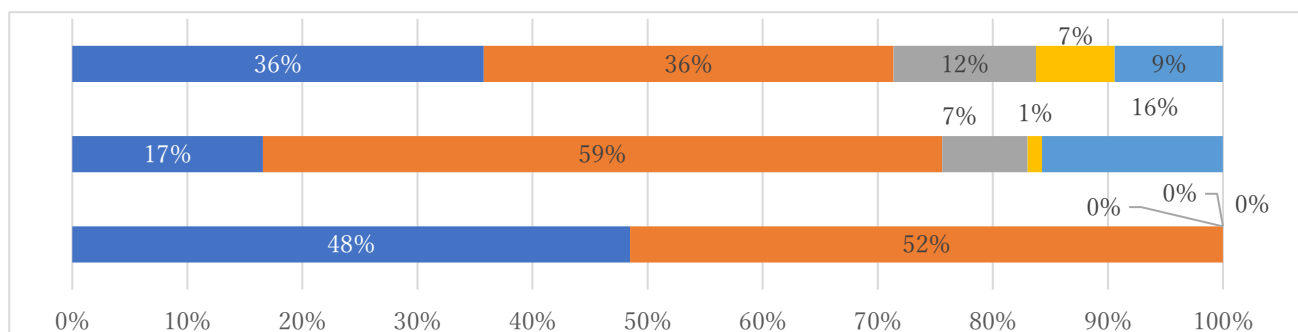
個別最適な学びや協働的な学びにおける児童用タブレット端末を活用した授業の進め方を教員同士で研修したり情報共有したりしながら、各学年で同質の授業を行うことができるよう努めています。保護者・地域の回答では「とても思う」が低くなっています。東京都、調布市の方針に従い、家庭に持ち帰った際の活用方法を検討し、充実を図ってまいります。また、通信状況改善に関しては、引き続き調布市に要望してまいります。

⑮【ICT 機器のルール】 家庭では、学校が示した ICT 機器のルールを参考にしながら、iPad 等の ICT 機器や SNS の使い方のルールを定め、守らせている。



学校共通のルール「タブレット活用のルール」（低・中・高学年用）を定めるとともに、学期に数回、ICT 朝会を行い、担当教員より iPad の使い方に関する内容やルールの確認を行い、正しく有効に使用できるよう努めています。保護者会や個人面談等を通じて、家庭での使用の様子を把握し、実態に応じた指導を行うなど、学校と家庭で連携して指導をしていきます。

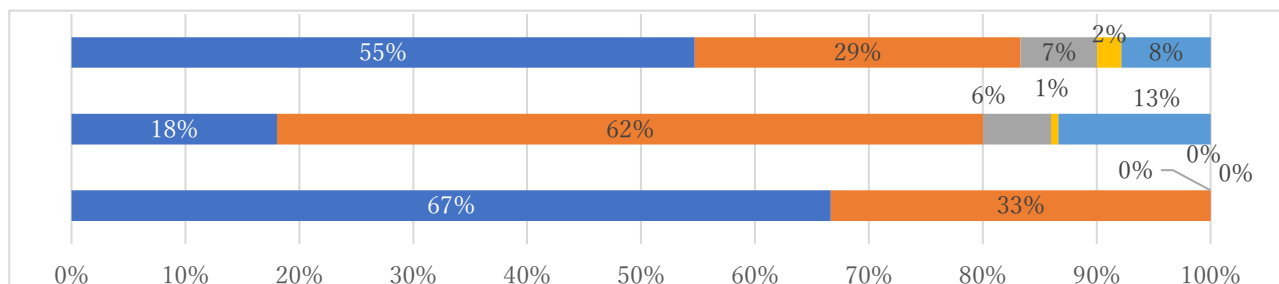
⑯【相談体制】 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、のがわ教室巡回指導教員等の人材を活用し、一人一人のニーズに合わせた相談しやすい体制を整えている。



保護者・地域、児童ともに「わからない」の回答が多くなりました。スクールカウンセラーに関しては、直接予約できることを便りでお知らせしているところですが、さらに校内の相談体制を分かりやすくご案内できるように努めます。児童には、身近な教員以外にも、スクールカウンセラーをはじめ様々な相談相手、相談先があることを定期的に伝えるようにします。

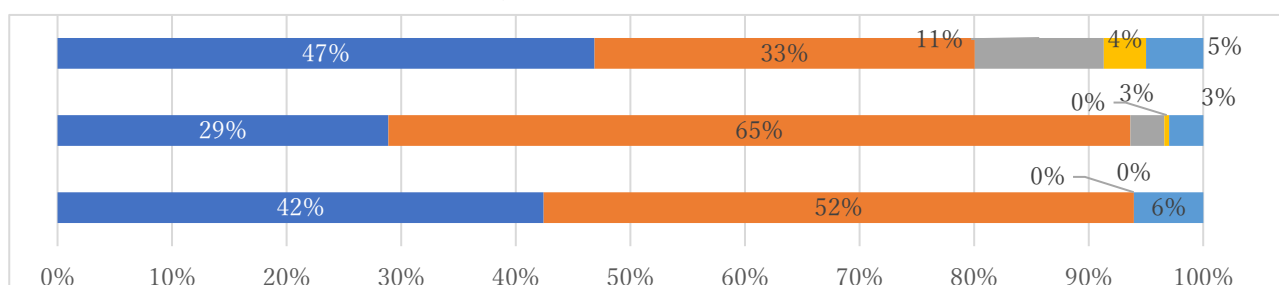
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（２～６年生）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

⑰【地域学校協働本部】地域学校協働本部の活動（漢字検定・花壇整備・地域人材を活用した学習支援や見守り等のボランティア・教員と連携したゲストティーチャーの招へい等）が、教育活動や教育環境の充実に繋がっている。



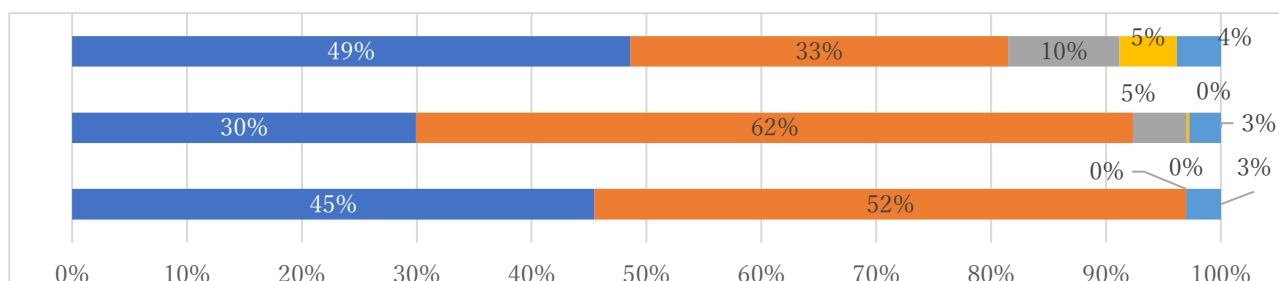
学校と地域の協働活動の充実を図るため、地域学校協働本部と密に連携しています。６年生のキャリア教育では、社会で活躍されている保護者の方に協力していただき、充実した学習となりました。授業のニーズに合ったボランティアやゲストティーチャーの紹介やその手続き、漢字検定や交通安全教室等の実施など、様々な活動を運営している状況を地域・保護者、児童に発信していきます。

⑱【開かれた学校】施設面等の課題がある中でも工夫しながら学校行事や学校公開等を実施し、開かれた学校を目指している。



「とても思う」の割合が高く、学校公開や第四中学校との連携による校庭借用、音楽集会（発表担当学年）の公開等に、一定の評価をいただいております。引き続き、本校の実態に応じた行事の進め方や公開の仕方等を検討し、開かれた学校を模索していきます。

⑲【情報発信】ホームページ（「学校生活の様子」など）の更新、学校だより、学級通信、「すぐーる」、保護者会等を通して学校の様子や情報を発信し、保護者・地域の方々との連携を大切にしている。



高い肯定的評価をいただきましたが、学校ホームページでは、毎日更新する「本日の給食」以外のコンテンツの充実も図ってまいります。不要なお便りが多いというお声をいただきました。関係団体へのペーパーレス化の協力依頼を今後も継続していきます。学校だよりは、印刷したものが必要なご家庭に向けて、職員室前の廊下に予備を置きますので、必要な方はご自由にお持ちください。今後も、SDGsの観点からペーパーレス化へのご理解ご協力をお願いします。

ご多用の中、ご協力いただきありがとうございました。今後の教育活動に生かしてまいります。